

## 保育計画成果報告書

法人名等	学校法人聖母学園
施設名	白根カトリックこども園
報告者（役職）	清水 愛子（副園長） 保坂 幸子（乳児部主幹）
住所・連絡先	新潟県新潟市南区能登2丁目7番30号
	☎ 025-372-1843 E-mail info@shironecatholic.com

### ○タイトル（保育計画）

預かり保育：異年齢ですごく、ゆったり・楽しい預かり保育

乳児保育：子どもたちの「自分でやりたい」「自分でできた」を叶える保育環境を

### ○主な助成備品

預かり保育：ままごとキッチン・ままごとセット・お人形・マット・ブロック・棚 等

乳児保育：ロッカー・テーブル・イス・棚・サークル・積木・すくすくトイボード 等

## 1. 保育計画策定の目的

令和3年にモンテッソーリ教育の幼稚園から幼保連携型認定こども園に移行しました。

預かり保育：異年齢で過ごす、ゆったり・楽しい預かり保育（幼児部）

幼稚園からこども園へ移行して、働く保護者が増え預かり保育を利用する園児が増えてきました。預かり保育は日中の保育が終わり、場所を替え毎日ほぼ決まったメンバーの子ども同士が過ごす場所です。慣れ親しんでいる担当保育者と20名くらいの預かり保育をする園児たち。夕方の保護者を待つ時間帯を、家庭的な雰囲気の中で、自分を安心して出すことができ、遊びに夢中になれるような環境を作り、預かり保育を充実させたいと計画しました。

乳児保育：子どもたちの「自分でやりたい」「自分でできた」を叶える保育環境を

モンテッソーリ教育では、子どもには「自ら育つ力がある」と考えます。この「自ら育つ力」を発揮するためには、子どもの「やりたい」が叶えられる環境を整えることが大切になります。もっと、子どもたちの「自分でやりたい」という思いを大切に、子どもたちが「自分でできる環境」を整えて、モンテッソーリ教育に沿った乳児保育を充実させたいと願い、保育計画を策定いたしました。

## 2. 具体的な実施内容

### <預かり保育>

異年齢でもっと遊べるように、ままごとセットを充実させました。大きめのブロックも購入し、ままごと遊びが広がるようにと考えました。中でもキッチンは、場所に限りがあり、場所を有効に活用するため子どもが使用するときに出して終わったら片付けやすく場所を

とらないものを選びました。

増えたおもちゃをきちんと片付けるために、頑丈な棚を購入しました。おもちゃの片付けは、当初は棚まで子どもが運ぶことを考えていましたが、危険があるのではないかと気付き、棚へ戻すのは職員が行い、子どもは箱の中におもちゃを片付けることにしました。棚にはそろった大きさの箱を用意し、そこにおもちゃを入れ、どの職員が使用してもきちんとしていて使いやすいようにしました。

#### <乳児保育>

- A. 巾着袋の中に入れていた着替えをロッカーのカゴに入れ、子どもたちが自分で着替えを出せるようにしました。
- B. 食事後、使ったエプロンとおしぼりを入れるカゴを置く棚を用意しました。
- C. 1歳児の体の大きさに合ったテーブルとイスにしました。
- D. サークルを設置しました。
- E. 手指の発達を促す玩具を揃え、子どもたちが自分で選んで遊べるようにしました。



A. ロッカー



B. 使用済みエプロンとおしぼり入れ



C. テーブルとイス



D. サークル



E. 手指を使う玩具

### 3. その成果と評価

#### <預かり保育>

ままごとコーナーにマットを利用し、コーナーを楽しい雰囲気準備することができたため、延長保育の時に異年齢で利用する姿があります。

キッチンは重ねて収納できるため、場所を選ばずやりたい場所に運び、どこでもキッチンになるため楽しさが広がりました。

年齢の大きい子どもが工夫した食べ物を作ると、年齢の小さい子どもも見ていて真似をして同じようなものを作ろうとしたりします。ままごとコーナーは居心地の良い場所になりました。



異年齢で同じ場所に集まって、ままごとで遊んでいる様子

#### <乳児保育>

- A. 子どもたちが自分で着替えを探しやすくなりました。自分で出し入れができるので、子どもたちが自分で着替えに向かいやすくなりました。また、ロッカーで部屋を区切り、身支度スペースにできたので、身支度に集中できるようになりました。
- B. 食事後、使ったエプロンとおしぼりを自分で片付けられるようになりました。
- C. 体の大きさに合ったテーブルとイスになったので、足が床につくようになり、落ち着いて食べられるようになり、食べこぼしが少なくなりました。
- D. 0歳児が安心してハイハイや午前寝をすることができるようになりました。
- E. 子どもたちが自分で玩具を選んでじっくり遊べるようになりました。手指を動かす玩具をたくさん揃えたので、手指を使ってじっくり楽しめるようになりました。



助成金で環境を整えることができた頃、研修で育児担当制を学ぶ機会がありました。子どもたちが「自分でできる環境」を整えることができたおかげで、食事スペース、遊びのスペース、体を動かすスペース（午睡スペース兼用）を作ることができ、育児担当制への移行をスムーズに行うことができました。子どもたちが自分でできることと保育者が丁寧に関わることの両方を大切に保育することができるようになりました。

#### 4. 今後の課題と展望

##### <預かり保育>

夕方の時間帯のため、園児たちは疲れも出てきやすくなります。時にはおもちゃを貸してあげられない時もあります。そのため、ままごとコーナーを何か所にも分けられる工夫が必要だと感じています。

また、お人形は人の形をしていることから、子どもはお人形を大切に感じていると思うので、もっと丁寧にお人形を扱えるように、置き場所をもう少し工夫したいと考えています。お人形を箱に片づけるのではなく、ベッドに寝かせておく、お人形の家を作ってその中に入れておくなどできるようにしたいです。

これからも、子どもたちの遊ぶ様子をよく観察し、遊びが深まるようにしていきたいと思っています。



2歳児が異年齢の園児と遊ぶ様子



キッチンを移動して楽しんで遊んでいる様子

##### <乳児保育>

保育室の環境を整えることができたので、これからは子どもたち一人ひとりの発達に合わせた遊びや活動の内容をもっと充実させられるように学び、話し合っていきたいです。

育児担当制も定着させて、子どもたち一人ひとりにていねいに関わる保育を、これからも大切にしていきたいと思っています。

以上